

## 新たな情報通信技術戦略の策定に関する意見

1. 個人／団体の別：個人
2. 氏名／団体名：非公開
3. 連絡先：非公開
4. ご意見：

どの施策にしても情報化関連のつまみ食いであり、その背景となる仕組み（制度・法体系）の作り変えなくしては、無駄な労力と出費となりかねないので、社会経済変革という背景全体の中での情報化の位置づけという整理が必要であり、されているのであればそれを公開しなくては、施策の優先度付けから恣意性を排除し、コンセンサスを形成するのは難しいのではないか？

個人的には重点施策⑥、⑦に関心があるが、e-Japan II以降示された方向性と何ら変わらず、それが出来ていないことは医療保険制度という仕組み全体をIT活用型に作り変えるという全体ビジョンがなく（医療構造改革も現行制度の継続が前提なので作り変えるというものとはいえない）、局所的なITの活用策検討に終始してきた結果、助成事業でしか事業が成り立たないといってよい状況が繰り返されてきたように感じられる。

例えば、具体的な取り組み12「全国どこでもMY病院構想」と16「シームレスな地域連携医療の実現」は、医療機関間が情報ネットワークでつながっていること、すなわち健康医療情報の電子的流通という共通の前提の下での個別施策として整理・展開する方がわかりやすい。このようにアメリカが採用しているnetwork of networksという情報ネットワーク化のコンセプトと同様に、様々な地域ネットワークで構成される全国ヘルスインターネットを構築するという共通ビジョンの下相互接続可能な様々な地域医療情報ネットワークが存在するというわかりやすい施策体系に再整理することは施策の優先度判断にも有効と考える。

そして情報化の実施を法的に担保（省令・政令ではない）した上で人、資金を10年間集中的に投下して進めれば、変える／変わるが現実にと考えると考える。

以上